

《パツソ・ドッピオ[速歩]》¹

水谷 彰良

パツソ・ドッピオ[速歩] *Passo doppio* [バンドのためのパツソ・ドッピオ *Passo doppio per Banda*]

作曲 1822年ウィーンまたは1823年ヴェネツィア (解説参照)

初演 不明

編成 バンダ

自筆楽譜 不明 (消失または未発見)

初版楽譜 未出版

解説

楽譜素材は未発見ながら、Gossett-2001に「1822年」「消失」として掲げられたバンドのための作品。「1822年」に該当する作品はラディチョッティ『ロッシーニ伝』第1巻の記述が典拠で、それによれば1822年7月22日に滞在先のウィーンを去るその少し前に作曲し、7年後、《ギョーム・テル》序曲の最後のアレグロ・ヴィヴァーチェに再使用したという²。けれども話の典拠は不明で、楽譜素材も一切確認されない。

一方、ロッシーニは1823年2月19日にヴェネツィアからオーストリアの宰相クレメンス・フォン・メッテルニヒ (Klemens Wenzel Lothar Nepomuk von Metternich-Winneburg zu Beilstein, 1773-1859) に宛てた手紙に、「バンドのための1曲のパツソ・ドッピオの楽譜を二つ、その一つは貴殿のもとにとどめ、もう一つは恐縮ながらネゼルロード [ネッセルローデ]³大臣閣下にアレクサンドロ皇帝陛下 [アレクサンドル1世] のための私の約束の履行としてお送りください」と記しており⁴、当時ロッシーニがバンドのための《パツソ・ドッピオ》を作曲したのは間違いない。しかしながらロシア皇帝のための《パツソ・ドッピオ》の楽譜も未発見で、該当作品は現代の研究者間に諸説あるものの決め手を欠き⁵、《ギョーム・テル》序曲アレグロ・ヴィヴァーチェの原曲に相当する楽譜素材も確認されない。それゆえ本稿ではラディチョッティに起因するそれを「1822年ウィーン」、ロッシーニ書簡に基づくそれを「1823年ヴェネツィア」作曲として作品目録に加える⁶。

¹ 初出は『ロッシニアーナ』第33号所収「ロッシーニ全作品事典(25) ロッシーニの器楽曲①」。HP用の改訂版、2015年1月。

² Giuseppe Radiciotti, *Gioacchino Rossini: Vita documentata, opere ed influenza su l'arte*, vol.I., Tivoli, Arti grafiche Majella di A. Chicca, 1927., pp.470-471.

³ カール・ロベルト・ネッセルローデ (Karl Robert Nesselrode, 1780-1862)。リスボン生まれのドイツ系の外交官で、1816年からロシア皇帝アレクサンドル1世の外務大臣を務めた。

⁴ Gioachino Rossini, *Lettere e documenti, II*, a cura di Bruno Cagli e Sergio Ragni, Pesaro Fondazione Rossini, 1996., pp.121-122.

⁵ 関連情報は *ibid.*, n.2 及び Gioachino Rossini Music for Band [Edited by Denise Gallo] in Works of Gioachino Rossini, Kassel, Bärenreiter, 2010., p.XVI., n.46.を参照されたい。

⁶ 前記『ロッシニアーナ』第33号の初稿ではライチョッティのロッシーニ伝に基づく1822年の《パツソ・ドッピオ》のみ挙げ、「作品目録に加えるべきか疑問の余地が無いわけではない」としたが、HP用の改訂版ではロッシーニ書簡を典拠に1823年の《パツソ・ドッピオ》を記述に加え、楽譜消失もしくは未発見の作品とした。